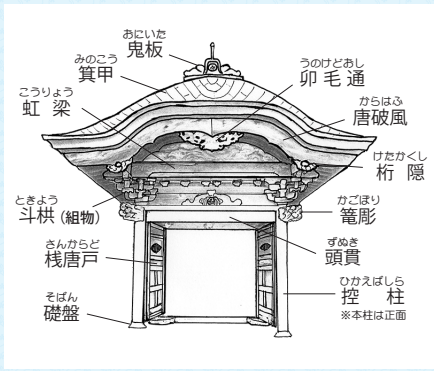


城里町の文化財さんぽ(三〇)

町指定文化財(建造物)

「唐門」

指定年月日/昭和四二年二月二七日
所在地/城里町上入野
管理・所有者/小松寺



唐門とは、屋根に唐破風(弓を伏せたような形の破風)を持つ門のことです。鎌倉時代以降、社寺や邸宅等の門に広く用いられ、桃山時代になると華麗な装飾を有する豪華な唐門が造られるようになります。

町指定文化財の「唐門」は、門の正面と背面に唐破風を持つ「向唐門」という様式の門で、屋根は銅板葺きです。本柱は円柱、控柱は角柱で木製の礎盤の上に立っています。門全体には、柱上部の箆彫(かごぼり)など精緻な彫刻が施されており、三階松・菊・牡丹・宝珠・飛鶴・扇・団扇・霊亀など様々な図柄を見ることが出来ます。扉は、鎌倉時代に伝来した禅宗様式の棧唐戸(さんからど)です。

この唐門の建築年代は明らかではありませんが、寺伝では「京都の小松谷にあった平重盛邸の勅使門を模造したもので、建久二(一一九二)年に常陸大塚義幹が寄進した」とされています。

春になると徳川光圀手植えのシダレザクラが花開き、唐門はより一層華やかに彩られます。解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局
029-1288-13135

俳句

長き夜飽くなき「対岸十月号」
鯉淵 寿美恵
秋灯下母の形見の眼鏡入れ
今瀬 多代美
晩鐘の村に流れて月観会
綿引 英子
窯の薪燃やし尽くして秋の風
中野 千賀子
展望台コスモスの波明るかり
森 静江
穂孕みの風かと思ひ深呼吸
仲田 まちゑ

文芸しろさと

短歌

盆の日に親族と膳になごみたり
遺影の父母の見下せる部屋
山形 式妙
昼前後売り込み電話のかかり
くる失礼なきよう聞いて断る
杉山 みちこ
死語となりし学童疎開とふ子ら
守りて溼刺とるし母若かりし
渡辺 千紗子
トトママとばあばと指さし語り
かけ幼はうれしき二歳七か月
大森 久子
炎天へ向ひて咲ける凌霄花咲
き登りつ、散りゆくもあり
青柳 京子

川柳

雲去りて輝いてをり初紅葉
飯村 昭子
木の実落つ冒険の距離広がり
竹内 幸子
母山羊にあまえる子山羊神無月
瀬谷 博子
ひばり誌の知事のスタートコキアの朱
岩下 金司
耕せば心にも風通るなり
田口 勝元
冬の猫あるじのタイプ無口なり
寺門 孝子
大衆魚のサンマも今は高級魚
富田 多蔵
料理ベタ美味しいおかずは本の中
車田 綾子
息はいて腹引つ込めて体重計
飯村 孝一
刻々と変る天氣に顔合わせ
川原 清

夫と行きし海外の旅懐かしき
アメリカカナダ、ヨーロッパへと
所 美恵子
誕生日の女孫にメールで「おめでと
う」送れば絵文字のメールが返る
枝 不美
赤沢江の講義聞きつつ思い出す
亡姉と摘みたるカタカゴの花
島 愛子
町長がシルバー体操参加され
みんな張り切る午後のひと時
信田 育子
曲りたる腰のばしつっつ店番
を客との会話一日たのしむ
坪井 きよ子
百歳に近き媪の送り花白百
合部屋にやさしく匂う
萩谷 登喜子

核実験ミサイル通過と企みて煽る隣国に不安抱きある
富田 佐智子
園内を走る電車で二度巡り
海浜公園夫と楽しむ
富田 欽子
十五夜に三度も願いかげにか
けこれからどんな人生くるか
富田 欽子

